

平成 27 年 12 月 9 日

教育長 答 弁 実 録

（ 教 育 委 員 会 ）

（問）グローバルリーダー育成校の意義と必要性について

「グローバルリーダー育成校」は、「学びの変革」を先導的に実践する学校として、教育委員会において検討が進められてきた。

日本全体が急速な少子化に直面し、45年先には、子供たちの数は半数にまで減少することが予測されており、児童・生徒の数が減少し、適正規模を維持するために学校数も減らしていかざるを得ない状況にあって、新たな学校を新規に創設するという事は、単に1つの学校を設置するという事に留まらない、県として、今後の人材育成の方向性について大きなメッセージを発信するものに他ならないと考えている。

これまでも文教委員会において議論が行われているが、改めて、本県として「グローバルリーダー育成校」を創設しようという意義と必要性について、教育長の所見を伺う。

（答）

現在、本県を含め我が国全体が、少子高齢化・グローバル化をはじめとする様々な課題に直面しており、今後の社会は、ますます変化が激しく、先行き不透明なものとなることが予測されております。

このような厳しい状況を乗り越えていくためには、全ての人々の持てる能力・可能性を最大限伸ばさせていくことが不可欠であり、教育が果たすべき役割は極めて大きいものと認識いたしております。

このため、昨年12月に広島版「学びの変革」アクション・プランを策定し、「知識を活用し、協働して新たな価値を生み出せるか」を重視し、「学び続ける力」を育成するための「主体的な学び」を県内全ての学校で実行することといたしております。

こうした中で、全寮制という環境において多様な価値観を持つ生徒が共に学ぶ全人的な教育や、校内外の様々な人々と協働し答えがひとつでない課題の解決に取り組む「プロジェクト学習」を国際機関と連携して実施するなど、思い切った取組を行う学校が必要であり、その実践事例を国公立の枠を超えて、全県で共有してまいりたいと考えております。

このように、この学校は、「国際社会の持続的な平和と発展を牽引できるリ

一ターを育成する」という役割とともに、「学びの変革」を先導し、その成果を国立や私立の学校も含めて還元することにより、県全体の教育水準向上を牽引するという役割を担う学校であり、今後、全県的な「学びの変革」を進めていく上で、必要不可欠な学校であると考えております。